

これからの図書“館”のカタチ

これまでの連載や皆さんとの意見交換をとおして、これからの図書館のカタチを考え、方向性を模索してきました。検討をふまえ、図書館のチカラが発揮できる運営場所や方向性について紹介します。

■これまでの図書館は？

これまでの図書館運営では、本の貸出が重視されがちで、全国的にも蔵書数を増やすことにチカラを入れてきた傾向にあります。しかし、どこかでかぎりも出てきてしまいます。

連載の第4回でも見てきたように高浜市の利用状況は、貸出人数(正味)の約1割にあたる約380の方が貸出冊数(個人向け)の約45%を占めており、読書好きな方の利用頻度は高いがそれ以外の方の利用が少ないことがわかりました。

図書館は「本の貸し借りをを行うだけの場所」ではなく「交わる・学ぶ・気づく」といった要素もある場所です。

これからのスガタを考えていくうえで、本の貸出も行いながら時代にあった役割・必要な機能を考え、市民の皆さんのくらしをサポートするチカラが大切になりますね。

■これからの図書館の基本的な方向性(案)

これまでの運営をふまえ、今後は皆さんの「くらしや生き方をささえる図書館」に近づくよう、次の基本的な方向性(案)をもとにした運営をめざします。

☆図書の貸出・予約、他館との連携など基本的なサービス内容に変更はありません。



1

図書や情報をとおして皆さんの「どうしよう?」「こうしたい!」といった想いに寄り添う相談支援を重視します

図書の貸出が重視されがちな運営(「何冊貸し出したか」)から「手に取った人にどんな効果があったか」など、「知りたい」「行動したい」などの想いを下支えするレファレンス(例:「情報を見つけだす」「調べ方」のお手伝い)を今後は重視し、図書を軸にさまざまな活動が交じりあう効果をいかした運営をめざしていきます。

2

子どもへのアプローチ、高浜市立図書館が培ってきた強みをいかす

「1年間に貸出された本の半分以上は子ども図書(※1)」「蔵書数の3分の1以上は子ども図書(※2)」といった現在の状況から、子ども向け図書は高浜の特色・強みであり、これからも継続的にチカラを注ぎ、子育て子育ての支えとなるような運営をめざしていきます。

※1:連載第4回に内容が記載されています。

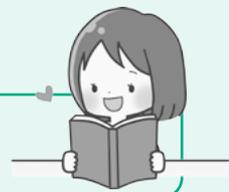
※2:連載第3回に内容が記載されています。

3

本との出会いの機会を広げる

既存施設へ複合化することで「別用のついでに図書館に寄って行こう!」といった活用が可能となり、より皆さんの身近に本を届け、本との出会いをつくり出します。

また、さまざまな活動や相談窓口とも連携し、くらしや自己実現を支えるツールとして、これまで利用しなかった方にも手に取ってもらえるような環境を整えます。



第13回

これからの高浜市立図書館のカタチについて

高浜市において、これからの時代にふさわしい「図書館のあり方」(役割・必要な機能)について、『これからの図書館のカタチ・チカラ』と題して、『広報たかはま』などをとおして市民の皆さんとともに考えていきます。

今号は高浜市立図書館の今後の基本的な方向性について紹介します。

この連載に関する感想などは、こちらのアンケートフォームから



問合せ先

いきいき文化スポーツグループ
☎ 52-1111 (内線331)

ゲストを交えて活動や運営のアイデア・可能性について

『みんなでいっしょに今後の図書館のスガタを考えよう!』

と き:1月16日(日)午前10時30分～午後0時30分

ところ:かわら美術館1階 ホール

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更がある場合は、市公式ホームページなどでお知らせします。

申込み方法

1月11日(火)までに氏名・連絡先・住所を明記のうえ、直接または電話・ファクス・メールで申込み
※詳しくは市公式ホームページを確認してください ⇒ ⇒



図書館を考える
フォーラム

第3弾

入場無料
要申込/先着順
定員100人

■チカラを発揮できる場所はどこ?

これからの図書館運営の場所として、さまざまな状況などを考えあわせ、今後図書館機能を「いきいき広場」および「かわら美術館」の両施設へ機能を移転し、現在行われている両施設での活動や特色もいかした運営をめざすことを検討しています。

3回目となるフォーラムを開催し、今後の考え方や移転先でどんなことができるかなど、今後の新たな図書館のスガタについて、皆さんといっしょに考えます。詳しくは上段の概要を参照してください。

新たなコミュニティの場のイメージ(案) 市内での配置および運営イメージ

いきいき広場

子どものための本の部屋+家庭や健康・子育てなどにつながる空間に

いきいき広場の利用時や駅利用のついでに立ち寄れるスポットに。子どもと本の出会いを大切にする「えほんの森」を市の中心部に設置して、もっと身近に本を手にとり、本が「市民活動」「子育て」「市の事業」などと交じりあう空間へ

…例えば、こんな空間になったらいいな…

- ・さまざまな世代の「どうしよう」に添った本を提供する
- ・乳幼児の健診のときに絵本と出会える空間へ



いつでもどこでも図書館

受け取り場所を指定すれば市内11か所の拠点で受取・返却が可能です。

さまざまな
活動との
交じりあい

かわら美術館

図書館機能をもった文化の拠点

まちを知り、自慢を発見できる場所へ。美術・郷土・大人の好奇心にスポットをあてる。

…例えば、こんな空間になったらいいな…

- ・図書館&美術館の相乗効果で“ひらめき”の拠点へ
- ・公園やレストランのある1日過ごせる非日常空間へ



吉浜・高取図書室

地域に親しまれている図書室は引き続き利用できます。